

ここがツボ！

患者に伝える 皮膚外用薬の 使い方

第3版

【著】

段野貴一郎

だんの皮膚科クリニック

はじめに

処方箋には“ツボ”があります。「ここがツボだ」と見破れば、医師の処方意図が理解できます。本書は、調剤薬局の薬剤師が処方箋のツボを理解し、患者さんに正しくわかりやすく服薬指導できることを目的としています。

著者はときどき医院と薬局の間で患者さんへの薬剤情報の提供や服薬指導に微妙な“ずれ”を感じています。患者さんは医師と薬剤師から受ける説明の“ずれ”に戸惑い、恣意的に自己判断し、そのため薬剤が適切に使われないことがあります。

説明の“ずれ”は外用薬によくみられます。たとえば、ステロイド軟膏を処方するとき、医師は症状を早く治すため「しっかり塗布してください」と説明します。しかし、処方箋を受けた薬局では、薬の基本的知識にのっとり「ステロイドは強い薬だからひかえめに」と患者さんに伝えます。その結果、患者さんは少ししか塗布せず、医師が期待した効果が表れないことがあります。

外用薬の場合、どのように塗布方法を説明したらよいか迷っておられる薬剤師も多いと思います。なぜなら、内服薬と違い、外用薬は用法・用量記載が漠然としているため、処方箋の解釈が難しいからです。医師は薬局に治療目的がきちんと伝わるような処方箋を作成すべきですし、薬剤師も一人ひとりの患者さんに応じた服薬指導を行わなくてはなりません。

今回、改訂2版が好評でしたので改訂3版を執筆することになりました。開業医としての10数年の経験を生かし、実地診療に役立つ処方箋を紹介します。新たな皮膚外用薬も追加しました。外用治療のノウハウ、実践に即したQ&Aも満載です。薬剤師の皆様、本書を参考に処方箋を正しく読み解いてください。処方箋を見て「ここがツボだな」とわかったら服薬指導の腕の見せ所です。本書が医院一薬局の連携に少しでも役立てば幸いです。

令和3年 コロナ禍の夏 栗東市にて
段野貴一郎

CONTENTS

| | |
|---|----|
| 第1章 処方箋の読み方と服薬指導の伝え方 | 1 |
| 1. 保湿薬 | 2 |
| 処方箋 1 油脂性保湿薬の単純塗布 | 2 |
| 処方箋 2 保湿ローションの単純塗布 | 4 |
| 処方箋 3 尿素ローションと乳剤性保湿薬の併用療法 | 6 |
| 2. 亜鉛華単軟膏 | 8 |
| 処方箋 4 亜鉛華単軟膏と油脂性保湿薬の混合処方 | 8 |
| 3. 抗ヒスタミン外用薬・鎮痒外用薬 | 10 |
| 処方箋 5 抗ヒスタミン外用薬の単純塗布 | 10 |
| 処方箋 6 鎮痒外用薬の単純塗布 | 12 |
| 4. ステロイド外用薬 | 14 |
| 処方箋 7 strongest ランクの単純塗布 | 14 |
| 処方箋 8 very strong ランクの単純塗布 | 16 |
| 処方箋 9 strong ランクの単純塗布 | 18 |
| 処方箋 10 medium ランクの単純塗布 | 20 |
| 処方箋 11 油脂性保湿薬とステロイド外用薬の重層塗布 | 22 |
| 処方箋 12 乳剤性保湿薬とステロイド外用薬の重層塗布 | 24 |
| 処方箋 13 ステロイド外用薬と亜鉛華軟膏の重層塗布 | 26 |
| 処方箋 14 ステロイド外用薬とアズノール軟膏の重層塗布 | 28 |
| 処方箋 15 油脂性保湿薬とステロイド外用薬の混合処方 | 30 |
| 処方箋 16 乳剤性保湿薬とステロイド外用薬の混合処方 | 32 |
| 処方箋 17 保湿ローションとステロイドローションの混合処方 | 34 |
| 5. 非ステロイド系消炎外用薬 | 36 |
| 処方箋 18 非ステロイド系消炎外用薬の単純塗布 | 36 |
| 6. アトピー性皮膚炎治療薬 | 38 |
| 処方箋 19 タクロリムス軟膏の単純塗布 | 38 |
| 処方箋 20 デルゴシチニブ軟膏の単純塗布 | 40 |
| 7. 瘡瘡治療薬 | 42 |
| 処方箋 21 過酸化ベンゾイルと外用抗菌薬の併用療法 | 42 |
| 処方箋 22 アダバレンと外用抗菌薬の併用療法 | 44 |
| 8. 乾癬治療薬 | 46 |
| 処方箋 23 ステロイド・活性型ビタミン D ₃ 配合薬の単純塗布 | 46 |
| 処方箋 24 ステロイド・活性型ビタミン D ₃ 配合薬と活性型ビタミン D ₃ の単純塗布 | 48 |
| 9. 外用抗真菌薬 | 50 |
| 処方箋 25 外用抗真菌薬の単純塗布 | 50 |
| 処方箋 26 爪白癬外用抗真菌薬の単純塗布 | 52 |
| 処方箋 27 外用抗真菌薬と保湿ローションの混合処方 | 54 |

| | |
|--|----|
| 10. 外用抗菌薬 | 56 |
| 処方箋 28 外用抗菌薬とステロイド軟膏の混合処方 | 56 |
| 処方箋 29 外用抗菌薬とアズノール軟膏の混合処方 | 58 |
| 11. 角質軟化薬 | 60 |
| 処方箋 30 サリチル酸（配合）軟膏の密封療法 | 60 |
| 処方箋 31 サリチル酸（配合）硬膏の貼付 | 62 |
| 処方箋 32 ポビドンヨードと角質軟化薬の併用療法（水いぼ治療の一工夫） | 64 |

第2章 外用薬の知識

| | |
|---------------------------------|-----|
| A 外用薬の成り立ち ～主剤と基剤～ | 68 |
| 1 主剤の薬理学的特性 | 68 |
| 2 主剤の主な種類 | 68 |
| 3 基剤の薬理学的特性 | 69 |
| 4 基剤の種類 | 69 |
| 5 剤形 | 72 |
| B 皮膚の構造と角層の機能 | 81 |
| 1 皮膚の構造 | 81 |
| 2 角層の機能 | 81 |
| C 保湿薬 | 84 |
| 1 作用と目的 | 84 |
| 2 主な種類 | 84 |
| D 抗ヒスタミン外用薬・鎮痒外用薬 | 93 |
| 1 抗ヒスタミン外用薬 | 93 |
| 2 鎮痒外用薬 | 94 |
| E ステロイド外用薬 | 96 |
| 1 効能 | 96 |
| 2 主剤（ランク） | 96 |
| 3 剤形 | 96 |
| 4 主剤（ランク）の選択 | 99 |
| 5 剤形の選択 | 100 |
| 6 ステロイド治療の実際 | 101 |
| 7 皮膚・眼への副作用 | 104 |
| 8 全身への副作用 | 106 |
| 9 ステロイド治療は皮膚科専門医のもとで | 106 |
| 10 ランク別ステロイド外用薬の処方のコツ | 107 |

| | |
|---|-----|
| F 非ステロイド系消炎外用薬 | 115 |
| 1 製品 | 115 |
| 2 適応症 | 115 |
| 3 長所 | 115 |
| 4 短所 | 115 |
| G 新しい皮膚外用薬 | 117 |
| 1 新しいアトピー性皮膚炎治療薬 デルゴシチニブ軟膏 | 117 |
| 2 最近の痤瘡治療薬 | 119 |
| 3 最近の乾癬治療薬 | 122 |
| H 外用抗真菌薬 | 125 |
| 1 種類 | 125 |
| 2 足白癬における使い方 | 125 |
| 3 足白癬の病型と剤形の選択 | 125 |
| 4 足白癬の合併症に対する治療 | 126 |
| 5 爪白癬外用抗真菌薬 | 126 |
| I 外用薬の塗布方法 | 129 |
| 1 単純塗布法 | 129 |
| 2 重層塗布法 | 130 |
| 3 密封療法 (Occlusive Dressing Technique ; ODT) | 132 |
| 4 正しい使用方法を守って | 134 |
| 5 塗布量の目安 | 135 |
| J 混合処方のは非 | 141 |
| 1 混合処方の実態 | 141 |
| 2 混合処方のねらい | 141 |
| 3 混合処方の欠点 | 142 |
| 4 混合処方好ましくない | 142 |
| 5 混合処方は似通った基剤同士で | 143 |
| 6 混合処方の許容範囲 (私見) | 144 |
| MEMO | |
| 1. 基剤に注意すべき外用薬 | 146 |
| 2. 塗布部位の名称 | 147 |
| 参考文献 | 148 |
| 索引 | 149 |
| 著者略歴 | 155 |

●ここがツボ！ 服薬指導の伝え方と注意点

| | |
|----------------------------------|----|
| 白色ワセリンの単純塗布 | 3 |
| ヒルドイドローションの単純塗布 | 5 |
| ウレパールローションとヒルドイドソフト軟膏の併用療法 | 7 |
| サトウザルベ・プロベトの混合処方 | 9 |
| レスタミンコーワクリームの単純塗布 | 11 |
| オイラックスクリーム of 単純塗布 | 13 |
| デルモベート軟膏の単純塗布 | 15 |
| マイザー軟膏の単純塗布 | 17 |
| リンデロンV軟膏の単純塗布 | 19 |
| キンダベート軟膏の単純塗布 | 21 |
| プロベトとボアラ軟膏の重層塗布 | 23 |
| ヒルドイドソフト軟膏とネリゾナ軟膏の重層塗布 | 25 |
| マイザー軟膏と亜鉛華軟膏の重層塗布 | 27 |
| リンデロンVG軟膏とアズノール軟膏の重層塗布 | 29 |
| 油性保湿薬とステロイド外用薬の混合処方 | 31 |
| ヒルドイドソフト軟膏とアンテベート軟膏の混合処方 | 33 |
| 保湿ローションとステロイドローションの混合処方 | 35 |
| コンベック軟膏の単純塗布 | 37 |
| プロトピック軟膏の単純塗布 | 39 |
| コレクチム軟膏の単純塗布 | 41 |
| ベピオゲルとダラシンTゲルの併用療法 | 43 |
| ディフェリンゲルとアクアチムクリームの併用療法 | 45 |
| ドボベツト軟膏・ドボベツトゲルの単純塗布 | 47 |
| マーデュオックス軟膏とオキサロールローションの単純塗布 | 49 |
| ルリコンクリームの単純塗布 | 51 |
| クレナフィン爪外用液の単純塗布 | 53 |
| ニゾラルローションと溶液性のヘパリン類似物質ローションの混合処方 | 55 |
| フシジンレオ軟膏とリンデロンV軟膏の混合処方 | 57 |
| ゲンタシン軟膏とアズノール軟膏の混合処方 | 59 |
| サリチル酸ワセリンの密封療法 | 61 |
| スピール膏の貼付 | 63 |
| イソジン液とケラチナミンコーワクリームの併用療法 | 65 |

●ワンポイントアドバイス

| | |
|--------------------------------------|----|
| 保湿薬の剤形 | 3 |
| 塗布部位の記載 | 3 |
| ヘパリン類似物質の使い方 | 5 |
| 手荒れのケア | 7 |
| 亜鉛華軟膏と亜鉛華単軟膏の違い | 9 |
| よだれかぶれ・おむつかぶれの治療 | 9 |
| 抗ヒスタミン外用薬の薬理効果 | 11 |
| オイラックスの薬理効果 | 13 |
| ステロイド外用薬の使い方 その1 | 15 |
| ステロイド外用薬の使い方 その2 | 17 |
| ステロイド外用薬の使い方 その3 | 19 |
| 顔面へのステロイド塗布 | 21 |
| 眼囲・口囲・口唇へのステロイド塗布 | 21 |
| 塗布する順序について | 23 |
| 手足湿疹の塗布指導 | 25 |
| 重層塗布法 | 27 |
| アズノール軟膏＋ガーゼ被覆のメリット | 29 |
| ステロイドと保湿薬を混合する目的 | 31 |
| 混合処方の場合 | 33 |
| ボトルの話 | 35 |
| プロトピック軟膏の使い方 | 39 |
| コレクチムの利点と欠点（ステロイド、プロトピックと比べて） | 41 |
| 瘡瘍に対する外用抗菌薬の位置づけ | 43 |
| 瘡瘍治療における保湿薬の是非 | 45 |
| ステロイド・活性型ビタミンD ₃ 配合薬のメリット | 47 |
| 乾癬病変に合わせた治療薬の選択 | 49 |
| 足白癬にステロイドが処方？ | 51 |
| 足白癬のフットケア | 51 |
| 足白癬の病型と薬剤の選択 | 53 |
| 脂漏性皮膚炎・フケ症にケトコナゾールが有効 | 55 |
| 伝染性膿痂疹（とびひ）にステロイド？ | 57 |
| 軽症熱傷（第Ⅰ度～Ⅱ度）の治療 | 59 |
| 角質軟化薬の単塗布または密封療法 | 61 |
| 鶏眼（ウオノメ）・胼胝（タコ）とは | 63 |
| 伝染性軟属腫（水いぼ）の治療法 | 65 |

●患者さんからの質問・疑問にどう答えますか？
 これまで学んだ知識を生かして対応しましょう

| | |
|---|-----|
| 外用薬の成り立ち編 | 79 |
| Q1 先発品と後発品（ジェネリック）の違いを教えてください。 | 79 |
| Q2 病院や診療所でもらう塗り薬と市販の塗り薬とは何が違うのですか？ | 80 |
| Q3 同じ商品名の薬なら軟膏もクリームも効果は同じですか？ | 80 |
| 保湿薬編 | 89 |
| Q4 保湿薬にはいろいろの種類がありますが、どのように使い分ければよいのでしょうか？ | 89 |
| Q5 軟膏はべとついていやなのですが… | 90 |
| Q6 新生児・乳児に保湿薬を塗っても大丈夫ですか？ | 90 |
| Q7 痒くて痒くて眠れません、睡眠薬でも先生に頼んでもらえませんか？ | 91 |
| Q8（湿疹のある赤ちゃんを連れてきて）この子、アトピーなのでしょうが？ | 92 |
| ステロイド編 | 111 |
| Q9 塗っているのですが、よくなりなくて……。効いていないのでしょうか？ | 111 |
| Q10 塗るとよくなるのですが、やめると元へ戻ります……。いつまで続けたらよいのでしょうか？ | 111 |
| Q11 アトピー性皮膚炎の乾燥肌に対して保湿薬を処方する先生とステロイド軟膏を処方する先生がいて、どちらを塗ったらよいか迷っています。 | 112 |
| Q12 アトピー性皮膚炎の治療におけるステロイド外用薬とプロトピック軟膏の使い方について教えてください。 | 113 |
| Q13 ステロイドを塗ると黒くなりませんか？日にあたると黒くなるとも聞いていますが…… | 114 |
| 痤瘡治療薬編 | 120 |
| Q14 ニキビあとが治らないのですが…… | 120 |
| Q15 ニキビ治療しながらお化粧してもいいですか？ | 121 |
| Q16 ニキビのスキンケアと日常の注意点について教えてください。 | 121 |
| 外用抗真菌薬編 | 127 |
| Q17 水虫薬はどのように塗ればよいのでしょうか。塗布量についても教えてください。 | 127 |
| Q18 水虫薬はいつまで塗ればよいのでしょうか。 | 127 |
| Q19 水虫の市販薬の選び方について教えてください。 | 128 |
| Q20 水虫の予防法について教えてください。 | 128 |
| 外用薬の塗布方法編 | 137 |
| Q21 保湿薬とステロイドの混合が処方されました。どのくらいの量を塗ればよいのでしょうか？ | 137 |

| | | |
|------|---|-----|
| Q 22 | 痒ければ何回塗ってもかまいませんか？ | 137 |
| Q 23 | 保湿薬とステロイドが別々に処方され、保湿薬を乾燥肌全体に、 ステロイドを湿疹部に重ね塗るよう指示されました。 ステロイドはどのような発疹に塗ればよいのでしょうか？ | 138 |
| Q 24 | 軟膏を塗ってガーゼで覆うように言われました。どのようにしたらいいですか？ | 138 |
| Q 25 | ラップフィルムで密封するよう指示されました。どのようにしたらいいのですか？ | 139 |
| Q 26 | 外用薬を塗った上からお化粧してもかまいませんか？ | 139 |
| Q 27 | 敏感肌・ニキビ肌にはどのような日焼け止めがお勧めですか？ | 140 |

1. 保湿薬

処方箋

1

油脂性保湿薬の単純塗布



白色ワセリン 100g

▶▶ 顔面・体幹・四肢 1日1～2回塗布

処方箋の解釈

①薬剤, 用量

白色ワセリン 100g

- ・代表的な油脂性保湿薬
- ・皮膚表面を保護し, 水分の蒸散を防ぎます。
- ・安全で, 保湿効果が持続し, 最もよい保湿薬です。
- ・冬季で乾燥が強いときはベストです。
- ・べとつき感が欠点です。

【同等薬】 プロペト, プラスチベース

②塗布部位, 塗布回数, コメント

顔面・体幹・四肢 1日1～2回塗布

- ・白色ワセリンの塗布部位, 塗布回数に制限はありません。
- ・乾燥の程度により適宜増減してもかまいません。

対象疾患と治療の意図

- ①疾患 皮脂欠乏症(角層水分量の低下による乾燥肌)
- ②意図 油脂性保湿薬で皮膚表面を保護し, 水分の蒸散を抑制したい。

ここがツボ！服薬指導の伝え方と注意点

白色ワセリンの単純塗布

①「白色ワセリンは安全で保湿効果が優れています」

抛り所：ワセリンは油脂性なのでカサカサを防ぐ効果が高い。
(油脂性保湿薬 p.84 参照)

②「手のひらでやさしく延ばしながら塗布してください」

「しっとり感が得られるくらいが適量です」

抛り所：油脂性なのでべとつき感がデメリットになる。
(単純塗布法 p.129 参照)

③「塗布するタイミングは入浴後がベストです。15分以内が理想的です」

「乾燥が強いところへは朝にもう1回塗布してください」

抛り所：入浴後は角層（皮膚の表面）が水和状態（みずみずしい状態）なので保湿薬がなじみやすく延びがよい。

ワンポイントアドバイス ▶ 保湿薬の剤形

- ・油脂性保湿薬（軟膏：白色ワセリンなど）
- ・乳剤性保湿薬（クリーム：水中油型、油性クリーム：油中水型）
- ・ローション（乳液性、溶液性）
- ・スプレー（ガススプレー、ポンプスプレー）

ワンポイントアドバイス ▶ 塗布部位の記載

- ・外用薬の塗布部位は、通常、解剖学的名称を用いて指示されますが、患者さんへはわかりやすい言葉で伝えましょう。
(塗布部位の名称 p.147 参照)
- ・“乾燥肌へ”“痒みへ”など、症状として記載されることもあります。

1. 保湿薬

処方箋

2

保湿ローションの単純塗布



ヒルドイドローション 100g

▶▶▶ 顔面・体幹・四肢 1日1~2回塗布 (保湿薬)

処方箋の解釈

①薬剤, 用量

ヒルドイドローション 100g

- ・保湿成分(ヘパリン類似物質)が角層の水分保持能を高めます。
- ・乳液性ローションです。基剤は水中油型(Oil in Water : O/W)です。
- ・伸びがよく使用感に優れています。
- ・水で洗うと落ちやすく、保湿時間が短いのが欠点です。
- ・軽度の乾燥肌に適しています。

【同等薬】ヘパリン類似物質ローション

②塗布部位, 塗布回数, コメント

顔面・体幹・四肢 1日1~2回塗布 (保湿薬)

- ・ヒルドイドローションは保湿薬として処方されています。
- ・昨今、ヘパリン類似物質ローションが化粧水がわりに使用される傾向を懸念し、処方箋には“保湿薬”と明記し、処方目的を患者さんに伝えるようにしています。

対象疾患と治療の意図

- ①**疾患** 皮脂欠乏症(乾燥肌)
- ②**意図** 保湿成分ヘパリノイドを角層(皮膚表面)に補い、水分保持能を回復させたい。

ここがツボ！服薬指導の伝え方と注意点

ヒルドイドローションの単純塗布

①「乾燥肌全体に塗ってください」

「しっとり感が得られるくらいが適量です」

【塗り所】：塗布量の目安は、Finger-Tip Unit (FTU) 法によると、ローションの場合、1円硬貨の大きさの分量を手のひら2つ分の面積に延ばすとされている。
(塗布量の目安☞ p.135 参照)

②「1日1回よりも2回の方が効果的です」

【塗り所】：臨床研究により確かめられている。

③「掻き傷があるとしみることがあります」

ワンポイントアドバイス ▶ ヘパリン類似物質の使い方

①軽度の乾燥肌

- ・ヘパリン類似物質ローションが適しています。
- ・同じ剤形でも伸展性・使用感などが微妙に異なります。溶液性のヘパリン類似物質ローションはヒルドイドローションよりもさらっとしています。
- ・ヘパリン類似物質ローションを顔面に塗布すると、稀に赤くなることがあるので注意が必要です。
- ・スプレーまたは泡状スプレーもよいでしょう。

②中等度以上の乾燥肌

- ・ヘパリン類似物質油性クリームまたはヘパリン類似物質クリームが適しています。油性クリーム（油中水型）は少し粘稠で、手を洗ったあと少し油分が残り、しっとりした使用感です。クリーム（水中油型）はさらっとしていて、水で洗い落ちます。（ヘパリン類似物質☞ p.85 参照）

A

外用薬の成り立ち ~主剤と基剤~

Summary

- ✓ 外用薬は主剤と基剤から成り立っています。
- ✓ 主剤の役割には、保湿作用、止痒作用、抗炎症作用などがあります。
- ✓ 基剤は主剤の作用発揮に大きくかかわっています。

1 主剤の薬理学的特性

主剤とは外用薬の役割を発揮する主成分のことです。

主剤の役割には、保湿作用、止痒作用、抗炎症（消炎）作用、免疫抑制作用、角質軟化作用、角化異常是正作用、抗菌・抗ウイルス・抗真菌作用、瘡瘻改善作用、末梢循環改善作用、皮膚潰瘍・褥瘡改善作用、抗腫瘍作用、局所麻酔作用などがあります。

2 主剤の主な種類

1) 保湿薬

- ・角層の水分保持機能を補填し、乾燥を是正します。
- ・ヘパリノイド、尿素など

2) 抗ヒスタミン薬

- ・痒みの伝達物質であるヒスタミンと拮抗し、止痒効果を発揮します。
- ・ジフェンヒドラミンなど

3) ステロイド外用薬（副腎皮質ホルモン）

- ・強い抗炎症（消炎）作用により、湿疹・皮膚炎を治します。
- ・ベタメタゾンなど

4) 非ステロイド系消炎外用薬

- ・抗炎症（消炎）作用により、湿疹・皮膚炎を治します。
- ・抗炎症作用はステロイドに比べて弱いです。
- ・ウフェナマートなど

5) アトピー性皮膚炎治療薬

- ・皮膚局所の免疫異常を是正し、アトピー性皮膚炎を治します。

- ・タクロリムス, デルゴシチニブ

6) 角質軟化薬

- ・角質軟化作用により, 角化病変を治します。
- ・尿素, サリチル酸など

7) 活性型ビタミン D₃ 外用薬

- ・角化異常是正作用により, 乾癬, 角化異常症を治します。
- ・タカルシトール, カルシポトリオール, マキサカルシトールなど

8) 外用抗菌薬

- ・抗菌作用により, 表在性皮膚細菌感染症を治します。
- ・ゲンタマイシン, フシジン酸ナトリウムなど

9) 外用抗真菌薬

- ・抗真菌作用により, 表在性皮膚真菌症を治します。
- ・テルビナフィン, ルリコナゾールなど

10) 瘡瘡治療薬

- ・アダパレンはレチノイド様作用により非炎症性皮膚疹(面皰)^{めんぼう}に有効です。
- ・過酸化ベンゾイルは酸化作用により主に炎症性皮膚疹に有効です。

3 基剤の薬理学的特性

基剤とは外用薬を構成する成分で, 主剤を溶かし込む物質のことです。
基剤には主に次の3つの薬理学的特性があります。

1) 皮膚保護・粘滑作用

- ・皮膚表面を覆い, 滑らかにし, 外的刺激から守ります。

2) 主剤安定化作用

- ・主剤の薬理活性を維持します。

3) 経皮吸収作用

- ・主剤の経皮(経皮膚)吸収を促します。
- ・主剤は角層表面および毛包から皮膚内に吸収されます。

4 基剤の種類

基剤は物理的・化学的性状により疎水性基剤と親水性基剤に分けられます。
疎水性基剤は油脂性基剤のことです。
親水性基剤は乳剤性基剤, 水溶性基剤, 懸濁性基剤に分けられます。

1) 油脂性基剤

性状

- ・半透明で油性（疎水性）の基剤です。

主な基剤

- ・ワセリン、プラスチックベース、サンホワイトなど

薬理学的特性

- ・皮膚保護・粘滑作用が優れています。
- ・主剤安定化作用が優れています。
- ・主剤の皮膚への浸透作用は乳剤性基剤より劣ります。

2) 乳剤性基剤

性状

- ・水分と油分を乳化した白色～乳白色の親水性基剤です。

主な基剤

- ・乳剤性基剤は2つに分類されます。

①水中油型乳剤性基剤 (Oil in Water ; O/W) :

水の中に油が分散した組成で、最もサラっとしています（親水クリームなど）。

②油中水型乳剤性基剤 (Water in Oil ; W/O) :

油の中に水分が分散した組成です。やや粘稠で、油脂性基剤と水中油型乳剤性基剤の間です。水相を欠くもの（親水ワセリンなど）と水相を有するもの（吸水クリームなど）があります。

薬理学的特性

- ・皮膚保護・粘滑作用は油脂性基剤より劣ります。
- ・主剤安定化作用は油脂性基剤より劣ります。
- ・主剤の皮膚への浸透作用は油脂性基剤より優れています。

3) 水溶性基剤

性状

- ・マクロゴールを主体とする親水性基剤です。
（いわゆる液剤のことではありません）

主な基剤

- ・マクロゴール（分子量の異なるポリエチレングリコールの混合物）など

薬理学的特性

- ・水性分泌物の吸収が優れています。
- ・乾燥・刺激作用が強いです。
- ・主剤の浸透作用は弱いです。

4) 懸濁性基剤 (ゲル剤)

性状

- ・ゾル(コロイド溶液)が固まって流動性を失い、ゼリー状になったもの

主な基剤

- ・ゲル剤には水性ゲル(ヒドロゲル)、リオゲル、油性ゲルがあります。

薬理学的特性

①水性ゲル(ヒドロゲル)

- ・水を溶媒とし、油性成分を含みません。
- ・伸展性に優れ、洗い流しやすいです。
- ・含有水分が蒸発する際に気化熱で皮膚を冷やす作用があります。
- ・水性分泌物を吸収するため、乾燥しやすく刺激性が強いです。
- ・主剤の浸透作用は弱いです(ただし、添加物により強いものもあります)。

表1 皮膚外用薬の基剤の分類

| 分類 | | 性状 | 薬理学的特性 |
|-------|---|-----------|---|
| 疎水性基剤 | 油脂性基剤 | | ワセリンを主体 |
| | ①皮膚保護作用 …………… 優れている ②主剤安定化作用 …………… 優れている ③主剤の浸透作用 …………… 劣っている | | |
| 親水性基剤 | 乳剤性基剤 | 水中油型(O/W) | 水の中に油が分散 |
| | | 油中水型(W/O) | 油の中に水が分散 |
| | 水溶性基剤 | | マクロゴールを主体 |
| | ①水性分泌物の吸収 …… 強い ②乾燥・刺激作用 …………… 強い ③主剤の浸透作用 …………… 弱い | | |
| 懸濁性基剤 | 水性(ヒドロ)ゲル | 水溶性高分子 | ①水性分泌物の吸収 …… 強い ②乾燥・刺激作用 …………… 強い ③主剤の浸透作用 …………… 弱い (強化されたものもある) |
| | リオゲル | FAPG | ①水性分泌物の吸収 …… 強い ②乾燥・刺激作用 …………… 強い ③主剤の浸透作用 …………… 強い |
| | 油性ゲル | 親油性 | ①水性分泌物の吸収 …… 弱い ②乾燥・刺激作用 …………… 弱い ③主剤の浸透作用 …………… 強い |

患者さんからの質問・疑問にどう答えますか？ これまで学んだ知識を生かして対応しましょう

～外用薬の成り立ち編～

Q1

先発品と後発品（ジェネリック）の違いを教えてください。

A

先発品も後発品も同じ有効成分を含んでいますので同等の効果が期待できます。後発品は先発品に比べて安価ですので薬剤費用も安くすみます。

解説

- ・先発品とは長い期間と多くの費用をかけて開発された薬剤です。有効性と安全性を基礎研究と臨床研究を重ねて確認し、厚生労働省の認可を受け、特許を獲得しています。
- ・後発品とは先発品の特許期間が満了した後、先発品と同一の有効成分を同一量含んでいることを条件に開発が許可された薬剤です。先発品と比べると承認認可の手続きが少なく、研究開発に要する費用も抑えられることから、薬価は安く設定されています。
- ・最近では、実に多くの後発品が発売されており、医療経済の観点から後発品の使用促進が勧められています。
- ・しかし、臨床経験から、主成分が同じというものの、先発品と後発品は必ずしも同等の効果を発揮するとは言いきれません。薬剤によっては若干の違いが感じられます。
- ・基剤が違うものもあります。先発品の保湿薬ヒルドイドローションは乳液性ですが、後発品のヘパリン類似物質口ローションの多くは溶液性であり、使用感はずいぶん異なります。
- ・剤形が追加されたものもあります。先発品のステロイド薬マイザーには軟膏とクリームがありますが、後発品にはローション基剤が追加されました。先発品の瘡瘍治療薬ディフェリンゲルの後発品には同じゲル基剤のほかクリーム基剤が加わり選択肢が広がりました。

Q2

病院や診療所でもらう塗り薬と市販の塗り薬とは何が違うのですか？

A

濃度や組成が違うことがあります。

解説

- ・最近では、保湿薬、ステロイド、水虫薬をはじめ処方薬と同じ薬効を持つ塗り薬がたくさん市販されています。
- ・ただし、処方薬と市販薬では、同じ成分のものでも、濃度や組成が違うことがあります。
- ・市販の塗り薬を使っていたがよくなるらないといって受診される患者さんがいます。
- ・よくなるらない理由としては、①市販薬が症状に合っていない、②市販薬にかぶれている、③塗布法が適切でない、④治療期間が十分でないなどが考えられます。
- ・自己治療でよくなるらない場合は、皮膚科を受診して、正しい診断と治療を受けるよう勧めてください。

Q3

同じ商品名の薬なら軟膏もクリームも効果は同じですか？

A

必ずしも同じとは言えません。

解説

- ・同じ成分（主剤）でも、軟膏とクリームは症状の状態によって使い分けられます。薬効に若干優劣を感じることもあります。
- ・間違っていると、逆に悪化することもあります。自己判断で選ばないで皮膚科医に相談してください。

●著者略歴

段野貴一郎

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
京都大学医学博士

- 1975年 京都大学医学部卒業
- 1975年 京都大学医学部附属病院研修
- 1977年 カリフォルニア大学医学部留学
- 1978年 京都大学医学部皮膚科助手
- 1984年 京都大学医学部皮膚科講師
- 1987年 天理よろづ相談所病院皮膚科部長
- 1992年 滋賀医科大学医学部皮膚科助教授
- 2006年 金沢医科大学非常勤講師(2020年まで)
- 2008年 だんの皮フ科クリニック院長(滋賀県栗東市)
滋賀県皮膚科医会監事(2021年まで会長)



【専門分野・研究分野】

- ・アレルギー性皮膚疾患の治療・対策
- ・日光アレルギーの診断と治療
- ・乾癬の原因解明と治療
- ・小児の皮膚トラブルとスキンケア
- ・痒みのメカニズムと治療・対策
- ・皮膚外用薬の使い方

【所属学会】

- 日本皮膚科学会 功労会員
- 日本臨床皮膚科医会 会員
- 日本光医学光生物学会 会員

【著書】

- ここがツボ患者に伝える皮膚外用剤の使い方 改定2版, 金芳堂, 2013
- 抗ヒスタミン薬達人の処方箋(分担), メディカルレビュー社, 2013
- 透析療法の合併症(分担), 腎疾患治療マニュアル, 腎と透析, 2012
- 透析患者における生活習慣改善策(分担), 臨床透析, 2012
- 臨床医必携「全身とかゆみ」(分担), 診断と治療社, 2011
- 透析そ痒症の最前線(分担), 透析療法ネクスト12, 医学図書出版, 2011
- 皮膚疾患最新の治療2009-2010(分担), 南江堂, 東京, 2009
- 透析室に置きたいかゆみ治療パーフェクトガイド, 金芳堂, 2008
- MB デルマ No.138 「紫外線と皮膚 update」(編集), 全日本病院出版会, 2008

【学術講演】

- 紫外線対策は美肌作りの第一歩, 滋賀県皮膚の日市民公開講座, 2019
- 難治性痒症の診断と治療, 京都搔痒症学術講演会, 2012
- かゆみの治療と日常のケア, 滋賀県皮膚の日市民フォーラム, 2012
- 小児の急性皮膚疾患, 小児救急医療地域医師研修会, 2012
- 乾癬, 掌蹠膿疱症, DLE と関節, 第45回日本リウマチ学会, 2010
- 透析患者のかゆみケア, 第13回日本腎不全看護学会, 2010

ここがツボ！患者に伝える皮膚外用薬の使い方

2009年 8月1日 第1版第1刷
2010年 5月20日 第1版第2刷
2013年 5月20日 第2版第1刷
2015年 6月10日 第2版第2刷
2021年 10月26日 第3版第1刷 ©

著 者 段野貴一郎 DANNO, Kiichiro
発 行 者 宇山閑文
発 行 所 株式会社金芳堂
〒606-8425 京都市左京区鹿ヶ谷西寺ノ前町34 番地
振替 01030-1-15605
電話 075-751-1111 (代)
<https://www.kinpodo-pub.co.jp/>
組版・装丁 oçyk design
印刷・製本 モリモト印刷株式会社

落丁・乱丁本は直接小社へお送りください。お取替え致します。

Printed in Japan
ISBN978-4-7653-1886-0

JCOPY <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

●本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。